

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣
医
の
カ
ル
テ



②



アレス動物
医療センター院長
(高岡市下伏間江)

沖田 将人

「肝臓は沈黙の臓器」という言葉を目にしたことがないでしょうか。医療の現場では、肝臓は病気になってもなかなか自覚症状が現れないため、そのように表現されます。これは犬や猫など動物でも同じです。再生能力が高く、多少の病気になっても自覚症状がありません。異変に気付く頃にはかなり病状が進行しているということになります。

「肝心要」という言葉があるくらいで、肝臓はとても重要な臓器です。肝臓は腸管から吸収した栄養を自分で利用できるように作り変えたり(代謝)、体に有害な毒物や薬物を分解したり(解毒)、

肝臓の病気



超音波エコー検査を受ける犬。肝臓を守るには早期発見が不可欠

胆汁という脂肪の消化吸収を助ける消化液を作ったり(消化)と、大切な役割を担っています。病気の発見の遅れは命にかかわるので

血液検査で早期発見

病気の発見が難しい臓器をどのようを守るかという点、やはり早期発見、早期治療が重要です。食

でも、人間同様、さまざまな疾患があります。肝炎、肝硬変、肝臓癌、中毒、胆石、胆嚢粘液嚢腫、胆嚢腫瘍、犬猫によくある疾患だ

欲が落ちる、吐く、下痢をする、元気が無いなどの症状が出てからではなく、元気がうちに健康診断で病気を見つけることが大切なのです。具体的には人間と同じように年に1回は血液検査を行い、GPTやALP、GGTなど肝臓の数値を調べてもらうとよいでしょう。異常値が見つかったら、様子を見るのではなく、治療あるいは追加の検査を行い、積極的に対応する必要があります。

でもこれだけあります。どれも最初は症状がほとんどなく、血液検査をすると肝臓の数値が高いだけです。X線検査やエコー検査、CT検査なども利用して、原因を究明するのです。

動物の医療も人間の医療同様、日々進歩しています。今まで発見が難しく、症状が出る頃には諦めるしかなかった肝臓癌も早期発見が可能になり、手術が間に合うケースも増えてきました。動物病院は病気になったときだけ行く場所ではありません。元気なときこそ定期的に動物病院に行き、症状が出る前に病気を見つけてあげましょう。